令和８年度 前期 学校評価アンケート（保護者）結果と今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。 先般実施いたしました「前期 学校評価アンケート」の集計結果がまとまりましたので公表いたします。保護者の皆様からいただいた貴重なご意見・ご指摘を真摯に受け止め、後期の学校運営および教育活動の改善に活かしてまいります。

１．アンケート結果

質問項目	はい	どちらかというと はい	どちらかというと いいえ	いいえ
毎日学校へ行くのを楽しみにしていますか。	52.4%	28.6%	14.3%	4.8%
学校の授業はわかりやすいと言っていますか。	33.3%	47.6%	9.5%	9.5%
毎日、家庭学習に取り組んでいますか。	52.4%	38.1%	4.8%	4.8%
進んで体を動かしていますか。	52.4%	33.3%	14.3%	0.0%
「早寝・早起き・朝ご飯」を心がけていますか。	52.4%	38.1%	9.5%	0.0%
自分や友だちのよいところを言えますか。	38.1%	52.4%	9.5%	0.0%
係の仕事や当番活動に取り組んでいますか。	19.0%	66.7%	14.3%	0.0%
地域の方々の協力を得て取り組んでいますか。	33.3%	57.1%	0.0%	9.5%

２．アンケート結果の考察

【良い点】

- **基本的生活習慣と家庭学習の定着**：「家庭学習（90.5%）」「早寝・早起き・朝ご飯（90.5%）」ともに高い割合を示しており、ご家庭での温かいサポートと習慣化のご指導に深く感謝申し上げます。
- **自己・他者肯定感の高まり**：「自分や友だちのよいところを言える（90.5%）」が多く、人間関係の土台づくりや認め合いの雰囲気が芽生えています。
- **体罰ゼロの維持**：体罰に関する設問では該当なし（100%「ない」）でありました。今後も安心・安全な指導環境の維持に努めてまいります。

【改善点・課題】

- **授業の理解度と学習不適応の予防**：「授業がわかりやすい」の肯定率は 81.0%ですが、「はい（積極的肯定）」は 33.3%にとどまり、自由記述でも「授業が難しくついていけない」という声が寄せられました。子どもたちの「わかった」「できた」という達成感を増やす授業改善が必要です。
- **登校に対する不安・不適応への寄り添い**：「登校を楽しみにしている」で否定的な回答が 19.1%（4 名）見られました。不登校の予防や初期の変化を見逃さないよう、子どもたちと丁寧に接してまいります。
- **学校運営・行事変更における説明不足と危機管理対応**：熱中症警戒アラート発令時の急な下校対応や、行事（運動会・スキー教室等）の見直し・変更に関する理由やプロセスの説明不足について、厳しいご意見をいただきました。迅速かつ計画的な危機管理と、合意形成を図る丁寧な情報発信に努めてまいります。
- **若手教員へのサポート体制**：初任者や若手教員が安心して学級経営を行えるよう、学校全体でバックアップする体制の構築が求められていると感じました。

３．後期の取組

（1）すべての児童に「わかった・できた」を届ける授業改善

- **「本時のねらい」の明確化**：毎時間のめあてと振り返りを明確にし、何ができるようになったかを児童自身が実感できる授業をつくります。
- **「主体的・対話的で深みのある学び」の実践**：ペア・グループ学習や 1 人 1 台端末を活用し、子ども同士が教え合い、意見を出し合える対話的な授業を展開します。

- **ユニバーサルデザイン授業の推進**：視覚的な工夫やスモールステップでの課題提示を行い、学習につまずきを感じやすい児童への個別の配慮・声かけを徹底します。

（2）どの子にも居場所がある学校づくり（不登校予防・不適応防止）

- **異学年交流と役割の分担**：係活動や当番活動で誰もが達成感を味わえる工夫をし、「自分は学校に必要な存在だ」と感じられる居場所をつくります。
- **SOS を出しやすい環境整備**：毎日のつむぐ（日記）での担任とのやりとりや定期的な面談を実施し、小さな変化や不安を早期に察知して登校しぶりや不登校の予防に努めます。

（3）危機管理スキルの向上と保護者・地域とのコミュニケーションの向上

- **熱中症・天候急変時の迅速・計画的な対応**：前日までの判断基準の事前周知や、保護者の送迎負担・安全を考慮した柔軟な一時保護（エアコン完備の校内待機等）の体制を整えます。
- **行事変更等における合意形成と情報発信**：教育課程や行事を変更する際は、変更の経緯・理由・背景を事前にお伝えし、アンケート等でいただいたご意見をどう反映したかを具体的に説明します。
- **若手教員をチームで支える体制強化**：学年主任や校務の主任を中心とした「チーム学年」で児童・保護者対応を行い、経験の浅い教員を組織全体でフォローします。